

KNCF NEWS

Keidanren Nature Conservation Fund

経団連自然保護基金だより
1998.7

No. 10



風が吹けば桶屋が儲かる——。「風が吹く」という環境変化が他に影響を与え、いくつかのプロセスを経たのち、最終的に桶屋が繁盛する。これは、昨今メディアでよく語られる『複雑系』が説くところの「マクロはミクロの関係性の上に成る」と同様、日本人がもともと持っていた、物事をすべての関係性から捉える思考法

によるものだったのでしょう。近代以降の文明を支えてきた要素還元主義とは対極にあるこの考え方が、いま、地球を取り巻く問題を考える上で、大切になっています。

「自然破壊がジェノサイド(民族大虐殺)を生む」。このことを実感したのは、アフリカ中西部にある小国ルワンダを訪れた時でした。この国で大量虐殺が起きたのは1994年のこと。4月に始まったフツ族によるツチ族虐殺は、7月初頭まで90日間続き、推定80万人が殺されたと言われています。1日あたり、およそ1万人の死者。その多くは、マシェットと呼ばれる農作業用の大鋸によって殺されました。

伝統的に農耕生活を営んできたフ

ツ族と、遊牧生活を続けてきたツチ族の対立。その背景に、20世紀初頭から50年間続いたベルギーによる植民地化政策があることは否定できません。しかし、それ以前から顕著となっていた自然破壊も、虐殺を生む重要なファクターとなったのです。

19世紀末、ナイル源流に入ったイギリス人探検家スタンレーは、当時のルワンダを「連なる丘には深い森林がうっそうと茂っている」と言っています。ところが、いまのルワンダで、そのような森を見ることはできません。高原の温暖な気候であるが故に、早い時期から人口が流入し、現在ではアフリカの人口密度を抱えるまでになったからです。

増え続ける人口。切り尽くされた



S P E C I A L R E

桃 井 和 馬

森の深みに 叡知をさがして



●ももい かずま

フリージャーナリスト。1985年、アジアから取材活動を始め、'89年からは1年間ペルーを取材。以降、この国の変化を見続け、'96年末～翌年4月の「ペルー大使公邸占拠事件」では、各メディアでレポートを行う。'91年より地球環境の観点から取材を開始。'95年には、現代における地球と人間の関わりを写真でとらえた一連の写真「地球素描」で、第32回太陽賞を受賞。現在、小学館発行『サビオ』の連載のため、世紀末の世界を見る取材を続けている。



森と、丘の頂上から麓に至るまで隙間なく作られた畑。なかには農作業などできそうにない、斜度50度にも達する急斜面にまで、テラッシング*されない畑が広がっています。そして雨が降るたびに、肥沃な土が茶色い水の流れとなってナイル川源流に流れ込むのです。作物の生産性が低下するのは時間の問題でした。

根を張り土壌流出を防いできた木。多様性のある生物環境を育み、人間に恩恵を与えてきた森。そうした自然がなくなったことで、人々の生活に「飢餓の悪循環」が生まれたのです。

自然破壊の要因はまだあります。それは、ルワンダに残るわずかな森のほとんどが、外来種のユーカリに

よって構成されていること。この木は成長が驚くほど早く、1~2年で建材や燃料として使うことができる一方で、顕著な問題も生むのです。

その理由は、

- ①あまりにも早く成長するため、周辺の水分や養分を取り、他の植物に影響を与える。
- ②幹がまっすぐなので建築材としては使いやすい反面、成長段階では降った雨が直接地面に当たり、土壌を流出させる。
- ③最大の問題として、人々が驚くほど成長の早いこの木に慣れると、地元の気候風土に強い在来種を「効率の悪い木」として軽んじて植えなくなり、森に多様性がなくなる。

ユーカリは緊急時に有効な『カンフル剤』ですが、恒久的にまとまった量を育てるには、あまりにマイナス要因が多い樹木でもあるのです。

食糧不足は人々の生活を不安定にし、不満の原因を作ります。肥大した不満は、やがて政府や異なる民族に向かい、最後にはジェノサイド(民族大虐殺)を生むのです。

現在、ルワンダ政府は危ういながらも政治・社会の安定を保っています。しかし、過去を繰り返さないためには、国際社会の協力のもと、時間がかかっても自然を回復させることが絶対条件なのです。

*テラッシング：土壌流出を防ぐため、斜面に石を組むこと。日本の段々畑もテラッシングである。完成までには、世代を越えた長い年月が必要となる。

P O R T



CONTENTS

〈SPECIAL REPORT〉

森の深みに叡知をさがして1
桃井和馬

〈巻頭言〉

退任のご挨拶

「環境ビッグバンの成功にむけて
NGOとより深い協力関係を」3
前経団連自然保護基金運営協議会会長
後藤康男

着任のご挨拶

「効率の良い支援と大胆な支援を」5
経団連副会長・経団連自然保護基金運営
協議会会長 樋口廣太郎

〈プロジェクトだより〉

エビ養殖池跡地におけるマングローブ林復元 ...7
マングローブ植林大作戦連絡協議会

〈企業紹介〉

電源開発株式会社9

〈KNCF NEWS SELECTIONS〉

- 支援プロジェクト決定11
- トピックス14
- 法人寄付お申込み会社16
- 個人寄付をいただいた皆様17

表紙写真 : ルワンダに流れるナイル川源流。

裏表紙写真 : 朝もやに包まれた畑で、わずかな土
地を耕していた農民・ルワンダにて。

* 表紙・裏表紙とも写真提供 : 桃井和馬

● 1998年7月発行

● 本誌はすべて再生紙を利用しています。

退任のご挨拶

環境ビッグバンの成功にむけて NGOとより深い協力関係を



前経団連自然保護基金運営協議会会長
後藤康男

今般、3期6年に及んだ当基金の運営協議会会長を退任いたしました。この間の会員各位ならびに関係各方面の皆様のご協力に、深く感謝いたします。

初代会長としての任期中に、1992年のリオにおける地球サミット、昨年12月の温暖化防止京都会議(COP3)など、環境分野における重要な会議が開催されました。両会議への参加や、今年3月の特定非営利活動促進法(NPO法)の成立経過を通じ、この6年間で世界、日本が大きく変化し、自分自身も変わったというのが実感です。

'91年に定められた「経団連地球環境憲章」の理念を具体化するものの一つとして、'92年に当基金は設立されました。日本産業界の自然保護活動の顔となれるよう、途上国において自然保護プロジェクトを実施する国内外のNGO支援と、国際的な自然保護活動に携わる人材育成とを目的として、積極的に展開してまいりました。お陰様でこれまでに合計で91件、8億3千万円のプロジェクト支援を行うことができました。

'96年には、自然保護分野で世界的に最も権威のある「国際自然保護連合(IUCN)」に加盟しました。IUCN総会にも出席して経団連と当基金の活動を紹介した結果、'96年総会決議では民間経済界とNGOの協力の好事例として明記されました。世界銀行とも2回のシンポジウムを共催し、多くの企業・NGO関

係の参加者から好評でした。

また、問題の把握と対応策の鍵は現場にあるという自分の信念に基づき、パラオ、パプアニューギニア、アフリカ、ミャンマー、フィリピンなど、環境保全や自然破壊の最前線を積極的に視察してきました。

こうした活動を通して、私は地球が持続不可能な状態になりつつあるという危機感を抱いています。この危機を打開するには、大量消費・大量廃棄の20世紀型パラダイムから、資源循環型経済社会へと革命的大転換する、いわば“環境ビッグバン”の成功が必要だと考えます。

その環境ビッグバンを成功に導く上で、大きな役割を果たすのがNGOです。幕末の坂本龍馬が藩を超越して日本国のために行動したように、地球益という新しい価値観で行動する“平成の坂本龍馬”が求められますが、多数の無名の龍馬をNGOで活躍する人々のなかに見ました。当基金が、NGOとの協力関係を深め、目に見える国際協力として樋口新会長のもと一層の発展を遂げることを期待しております。

今年、国連環境計画(UNEP)から頂いた“グローバル500賞”は、私個人の荣誉というよりも当基金の活動が世界的に評価されたものと受け止め、受賞を励みに退任後も可能な限り協力していきたいと考えております。

効率の良い支援と 大胆な支援を



経団連副会長
経団連自然保護基金運営協議会会長
樋口廣太郎

去る5月26日、第60回経団連定時総会が開かれ、今井敬会長以下の新役員が選任されましたが、総会直後の会長副会長会議で、私は今井会長から経団連自然保護基金運営協議会の会長に就任するよ

うにとの指名を受けました。
経団連自然保護基金の設立とその後の発展に、献身的に働かれた後藤康男会長が、在任3期6年になることから、強く交代を望んでおられたことをよく承知していましたので、熟慮の上お引き受けすることにいたしました。

経団連自然保護基金のこれまでの活動は、後藤会長が回顧されている通り、会員各位のご協力により、わが国産業界の自然保護活動の顔として世界的に知られる存在になってきております。わが国産業界の環境改善に対する個々の企業の徹底した努力と相俟って、わが国の姿勢は世界から高く評価されていると思います。これまでの関係者各位のご努力に心から敬意を表したいと思います。

いま改めて世界の自然環境を概観してみますと、地球温暖化問題をはじめ、熱帯雨林の大規模な消失、オゾン層の破壊、海洋汚染、生物多様性の減少など、様々な問題を抱えております。

本基金は、一度失われた生物種は復元ができないことから、特に緊急性が高いとされてきた生物多様性の保護に力点をおいて支援活動を展開してまいりました。環境にまつわる課題はますます大きくなってきており、本基金の重要性は増すものと思われまます。

私の任務は、第一に環境NGOへの支援の継続です。第二は、効率的な支援のあり方の追求です。他の支援財団との密接な情報交換も必要です。なお、効率性を追求するにあたっては、確実性のみならず、NGOの新しい可能性を安易に否定することのないように注意する必要があります。NGOの可能性を引き出すことについては、一定の枠を設けて、むしろ大胆に、失敗を恐れない支援

が必要であると言ふべきかもしれません。第三に、私は経団連自然保護基金の新しい課題として、従来実施してきた海外への支援のみならず、国内の自然保護活動へも支援の幅を広げていきたいと考えております。

経団連自然保護基金の運営にあたっては、私なりの工夫も加えて、皆様のご期待に沿うよう努力いたしたいと考えておりますので、経団連会員各位および経団連自然保護基金運営協議会の会員各位には、ますますのご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。

●ひぐち・ひろたろう

1926年 京都府生まれ
1949年 京都大学経済学部卒業
同年、住友銀行入行
1973年 取締役
1975年 常務取締役
1982年 副頭取
1986年 アサヒビール社長
1992年 同社会長
1995年 経団連副会長
主な著書「もう5センチ頭を下げて」「明日を読むヒント」ほか多数

プロジェクトだより

経団連自然保護基金が支援している自然保護プロジェクトのなかで、失われた森林を復元するための植林活動は、その成果が大いに期待されているものの一つです。当初は、日本から大勢のボランティアを動員して、植林の技術や効果を地元伝えるものが多かったのですが、最近では地元のNGOを活用し、日本からは指導者のみが現地に足を運ぶだけで、成果を上げているものが増えています。

今回は、「マングローブ植林大作戦連絡協議会」が進めるタイ・ナコン

シタマラートにおける「エビ養殖池跡地におけるマングローブ林復元プロジェクト」をご紹介します。本会は、世界の国々と協力してマングローブを植林し、地球緑化と国際親善を目指すNGOです。このプロジェクトには、●味の素、●清水建設、●積水化学工業、●ソニー、●トヨタ自動車、●ニチレイ、●松下電器産業などからの特別支援も寄せられています。

エビ養殖池跡地におけるマングローブ林復元

マングローブ植林大作戦連絡協議会

●「Green Carpet Project・緑の絨毯作戦」とは

いま地球上には、約1,800万haのマングローブ森林が分布しています。最も広い面積を有するのは東南アジアですが、ここでもその面積は減少し続けています。例えば、タイのマングローブ森林はこの30年間に50%以上が消失し、約17万haとなってしまいました。

減少の原因の一つに、急速なエビ養殖池への転換があります。しかも、養殖開始当初の給餌技術や病気への対応など管理技術の未熟さから、生産力の低下した養殖池が放棄され、新たな養殖池が建設されることにより、マングローブの伐採がさらに進みました。現在、累計で数万haのエビ養殖池が放棄されており、約40%の養殖池が国際価格の下落・病気の蔓延などで操業を停止しています。100%操業停止に追い込まれている地域もあります。

近年、タイでも環境問題に対する人々の関心が高まり、地元関係者や地区住民は、伐採前の生物多様で豊かなマングローブ生態系を取り戻したいと、強く希望するようになってきました。私たちは、現在、広大な面積の放棄エビ養殖池を、開発前の生物多様なマングローブ森林に修復するプロジェクトとして「Green Carpet Project・緑の絨毯作戦」を提案し、行動を開始しようとしています。



シリントン第二王女は、精力的にタイ国内でマングローブ植林に取り組まれている。ソングラ湖でのマングローブ植林の様子

●プロジェクトの経緯と概要

私たちは1994年から南部タイのバンガ州バン
トイ村で、ボランティアによる日本・タイ友好マン
グローブ植林活動を地域の人の協力を得て実施
しており、4年間で200ha・約80万本の植林を行
いました。現在、この村では独自のマングローブ植
林組織を結成し、植林を積極的に進めています。

南部タイ・シャム湾に面したナコンシタマラート市
東部には約3,000haのエビ養殖池が広がっていま
すが、現在ではそのほとんどが放置・放棄されてい
ます。私たちは、この養殖池と沿岸域1,000haを生
物多様なマングローブ生態系に修復するための提
案を、王室森林局とナコンシタマラート地方林政局
へ行ってきました。

本プロジェクトの主な取り組みは、

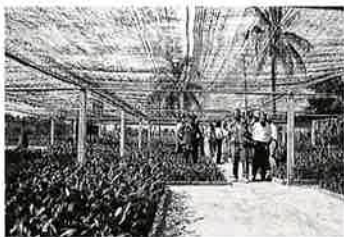
- (1) マングローブ森林による活発な炭酸ガスの吸
取と固定能を活用し、天然資源を育成・増加
する
- (2) 沿岸域の環境改善を促進する
- (3) 魚をはじめとする食料資源の供給、ならびに
マングローブ森林生産物の生産を拡大する
- (4) 地域共同体の社会・経済的状況を改善する
- (5) 地域住民の副収入増加の助成を図る
- (6) マングローブの保全・保護・修復に向けて、地

域共同体の参加を促進する

- (7) 沿岸環境問題についての教育・啓蒙を促進す
る
- (8) 地域交流センター (Mangrove Community
Center) の建設
- (9) マングローブ植林と管理に関する国際会議、
トレーニング、ワークショップを隣国・地域の
参加のもと開催する

これらの提案は完全に受認され、本プロジェクト
に対して地元の理解と協力が最大限に得られる
ことが、協議の結果、合意されています。タイ国内
でのマングローブに対する関心の高まりは、この
数年のことです。これは、地球温暖化、森林破壊、
沿岸浸食、化学物質汚染など、地球環境問題への
意識が高まってきたからだと推察されます。

'98年から5年間で、本格的なプロジェクトを開
始する予定です。現地関係者の意欲は極めて高く、
またタイ王室をはじめタイ政府関係者の期待も絶
大です。私たちは、日本・タイ友好親善の上から
も非常に重要なプロジェクトであると考えていま
す。本プロジェクトは放棄エビ養殖池跡地を豊か
なマングローブ森林へ修復するモデル事業として
タイの人々との共同で実施するものですが、これ
はタイのみならず東南アジア全体、また地球全体
の問題であると捉え、計画しています。



本プロジェクトで植林されるマングローブ
苗を育成するため、'97年12月に開設され
たマングローブ育苗センター



放棄エビ養殖池断面図作成のため、日本・
タイの共同で調査を実施



植林約5年後には6~7mに成長し、魚など
多様な生物が生息しはじめ"海の中に生え
る森林"が出現する

企業紹介

電源開発株式会社

経団連会員企業には、自然保護活動に熱心に取り組んでいる企業が数多くあります。

今回ご紹介するのは、発電所や送電線の建設・運転・保守を行っている電源開発株式会社です。

電源開発では「開発と環境保全との調和」を目指し、「環境行動指針」を策定して、国際規格に準拠した環境マネジメントシステムを推進しています。

その一例として、沖縄県本島北部で実施している、海水揚水発電技術実証試験プラント建設における環境保全対策についてご紹介します。

●海水揚水発電技術実証試験とは

このプラントは、沖縄県国頭村に調整池を設け、海面との有効落差136mを利用して、最大出力3万kWの発電を行う世界初の海水を利用した揚水発電の実証プラントです。本事業は通商産業省からの委託を受けて実施しており、1990年より準備工事を開始、来年度からは5年間の試験運転を行う予定です。

●環境保全対策

沖縄本島北部は山原(ヤンバル)と呼ばれ、ヤンバルクイナやノグチゲラをはじめ、16種の生物学上貴重な動物が生息しており、周辺海域にはサンゴが広く分布しています。このため本プラント建設にあたっては、

1. 開発範囲を最小限度とする
2. 環境保全対策範囲は周辺の生態系も含める
3. 損なった自然を速やかに再生させるための十分な環境を創る

の3つを基本方針としました。地元学識経験者を中心とした貴重動物保護検討会を設置し、環境調査を踏まえた上で、具体的に以下のような環境保全対策を行いました。

(1) 小動物の保護

カメなどの小動物が工事区域に入って事故にあわないように、高さ30cmのポリエチレン製の侵入防止柵を外周8kmにわたり設置。さらに側溝には、小動物が転落しても自力で脱出できるように、片側をスロープにした傾斜側溝を採用しました。

(2) 濁水処理

赤土がそのまま流出するとサンゴなどに影響を及ぼします。工事によって発生する濁水及び降雨時の赤土流出を防止するため、濁水貯留池を設けて全



国頭村の太平洋岸・美作(ちゆらさく)地区にある、海水揚水発電技術実証試験プラント

量集水貯留。濁水処理プラントで清浄にした後、放流しました。さらに、工事後の赤土露出部分については、平坦部は木の皮やチップで、斜面部はヤシ殻マットで覆い、赤土流出を防止しました。

(3) 植栽

工事による改変区と森林の境界から既存木を保護するため、掘削地から幼木を移植。道路などの斜面は、種子吹きつけやイタビカズラなどの地被類の植栽を行いました。土地改変区域については、実生から育てた周辺の優占樹・イタジイなどが早く周辺の植生と同様になるように、優占樹を助けるバイオニア樹(早く成長して風避けなどとなる)と混栽。あわせて約3万本を植栽しました。

(4) 環境の創成(ビオトープ)

工事の残土を処理する場所は、生物が共存する生態系を育む環境創成の場として、先の植栽をはじめとして、大小の池や石積みの水路などを配置。植物や小動物などが存在しやすい環境を整備しました。ヤシ殻マットなどは樹木の成長に役立つとともに、小動物の住処ともなっています。

(5) 工事関係者への指導

貴重動物の写真と貴重動物を発見した場合の



小動物保護のために設けた侵入防止柵と傾斜側溝



イタジイ・アデクなどの優占樹のほか、アカメガシワなどのバイオニア樹、シメグサなどの結実樹を混栽



残土処分場(環境創成地)の池や石積みの水路、植栽など

工事関係者に配付した手帳型パンフレット。1990年度以降、本年5月10日までに196件の貴重動物確認報告があった



注意事項を記載し、確認(発見)報告書を添付した手帳型パンフレットを工事関係者に配付。このほか、ポスターの掲示や専門家による講演を行うなど、工事関係者の認識を高め、適切な対応を指導しました。

●おわりに

当社ではこのような取り組みの実績を踏まえながら、今後の発電所建設に活かしていくとともに、さらに開発と環境保全との両立を目指して努力していきます。

KNCF NEWS SELECTIONS

経団連自然保護基金運営協議会活動報告

KNCF NEWS SELECTIONS

支援プロジェクト決定

1998年度支援プロジェクト一覧

経団連自然保護基金では、1992年9月の発足以来、会員企業ならびに個人会員の皆様よりお寄せいただいた寄付金をもとに、開発途上国の自然保護プロジェクトや自然保護に携わる人材育成の支援に向けて積極的な活動を行ってきました。

98年度は、公募により申請のあった77件の案件をプロジェクト認定委員会にて公正に審査した結果、37件（継続19件、新規18件）を認定し、総額約1億7千万円の助成を決定しました。（以下、カッコ内は〔実施場所／申請団体〕）

■国内NGO・継続案件

1. 四川省岷江流域における森林保護のための植林及び啓発活動
現地住民を対象に森林保護についての啓蒙活動を実施し、住民による自発的な植林活動を促進する。
〔中国／（社）国際善隣協会〕

2. 環境保全による砂漠化防止事業
植生数を増やし多様性を回復させることをねらい、薪に適した樹木、果樹などの永年性有用樹木など付加価値の高い樹木の植林を実施する。
〔アフリカ・マリ共和国／西アフリカ農村自立協会〕

3. 植林などによる環境保全
自然資源・水資源の状況が悪化しているブルキナファソ最北部のタカバング村において、自然環境改善を目指し、植生保護、植林、沼に対する砂丘侵食の防止工事などの活動を行う。
〔アフリカ・ブルキナファソ／緑のサヘル〕

4. ハラサ砂漠の緑化と環境保全
中国科学院の要請を受け、砂漠化防止の一環として、5

年前から日本人ボランティアと現地住民共同での植林活動を展開している。今年度3万本の植林を実施する予定。
[中国/地球緑化センター]

5. バラワン島でのマングローブ植林

バラワン島アボラン海岸にて、住民主体のマングローブ植林活動(30haの土地に30万本)を実施する。
[フィリピン/(財)オイスカ]

6. 野鳥を指標とした重要自然環境調査

アジアにおいて、今後の自然保護に資するデータの取得を目的に、野鳥を指標とした各地域の生物多様性の状況調査を実施する。今年度は特に中国を重点的に調査する。
[アジア全域/(財)日本野鳥の会]

7. フィジー西部地域での植林

ビジレブ島西部地域山岳部および海岸線にて住民主体の植林(山岳部:10万本/90ha、海岸線:10万本/10ha)を実施する。
[フィジー/(財)オイスカ]

8. ベナランダ川流域の原生林保護と育苗場建設

ヌエバシジャ州の原生林保全を目的に、森林破壊の根本原因である貧困撲滅を目指し、アグロフォレストリー、代替産業の育成、識字教育、インフラ整備などを実施する。
[フィリピン/ICA文化事業協会]

9. エビ養殖池跡地におけるマングローブ林復元

タイの大学および王室森林局と協力し、エビ養殖池跡地(1,000ha)をマングローブ林に復元する。
[タイ/マングローブ植林大作戦連絡協議会]

10. 森林理解のための研修キャンプ

タイで環境教育としてのネイチャーゲームの講習会を開く。昨年は地域活動の担い手27名にネイチャーゲームを指導したが、今年はそれに加えて参加者のネットワーク化をも目指す。
[タイ/(社)日本環境教育フォーラム]

■国内NGO・新規案件

11. インドネシアNGO支援

日米コモンアジェンダの具体行動の一つとして、外務省と協力しインドネシアでの自然保護活動を支援。
[インドネシア/日米コモンアジェンダ円卓会議ほか]

12. マングローブ生態系とエビ養殖の共生

マングローブ植林地でのエビ養殖(結合型養殖)の実態を調査し、マングローブの作り出す生態系を生かしたエビ養殖技術の確立を図る。
[ベトナム/マングローブ植林行動計画]

13. 生物多様性ホットスポット情報地図作成

ロシア極東地域で重要な生態系の所在・特色・現状など、同地域の生物多様性保護に必要な情報を収集して情報地図を作成し、各国の自然保護機関に提供する。
[ロシア/地球の友ジャパン]

14. 共有林の非木材資源の利用と管理

ラタナキリ州の4つの村を対象に、山岳民族が伝統的に森林資源の利用・保全・管理ができるよう、「問題分析」「問題解決の方法」や「将来への計画作り」を意図したトレーニングを実施する。
[カンボジア/日本国際ボランティアセンター(JVC)]

15. 山西省の黄土高原における緑化活動

山西省で1992年から実施している砂漠緑化活動の継続であり、今年度も植林および研修を行う。
[中国/緑の地球ネットワーク]

16. 伝統に根ざした持続的森林農業経営

カムアン県にて住民が自然環境を維持しつつ、自立的・持続的に発展できるよう、県内20カ所の村でアグロフォレストリーをはじめとする有機的・複合的森林経営を推進・普及する活動を行う。
[ラオス/日本国際ボランティアセンター(JVC)]

17. ネパールにおけるコミュニティフォレスト事業

熊野森林文化国際交流会の研修終了生が帰国後、サンク村でコミュニティフォレストを実践している。ここに専門家を派遣しアドバイスを行うとともに、現地リーダーを日本に招き技術研修を行う。
[ネパール/(社)アジア協会アジア友の会・熊野森林文化国際交流会]

18. タイにおける環境教育と緑化活動

環境意識が低いウボン・ラチャタニ県(最貧地区)において、学校、住民に対する環境教育を実施するとともに、地域コミュニティによる植林を行う。
[タイ/(財)ケアジャパン]

19. 湿地生物多様性保全と泥炭林火災予防キャンペーン
冬季に多くの渡り鳥の飛来するクトゥブ湖の湿地保全

を目的に、対象地域の地図・植生図作成及び森林火災発生予防キャンペーンを行う。

[パプアニューギニア/国際湿地保全連合日本委員会]

■海外NGO・継続案件

20. ポンペイ水源保護

住民による自然資源管理および持続可能な開発を目的に、住民への持続的農業の指導、自然保護管理官の人材養成などを行う。

[マイクロネシア連邦/ザ・ネイチャー・コンサーバシオン(TNC):米国]

21. エコツーリズム開発と生物多様性の保護

昨年に引き続きトギアン諸島にて①自然保護のインセンティブとなる産業(エコツーリズムなど)の育成、②トギアン島自然保護協会の能力向上の支援を実施する。
[インドネシア/コンサベーション・インターナショナル(CI):米国]

22. ルンビニ地区でのサルズ鶴保護

サルズ鶴をはじめとする希少動物保護を目的に、ルンビニ湿地の生態系回復のための活動(池の造成、植林、保護柵の建設、キャンペーンなど)を実施する。

[ネパール/国際鶴財団(ICF):米国]

23. 南部チベットの農業地区におけるオグロ鶴保護

全世界で6,000羽しか存在が確認されていないオグロ鶴の保護を目的に、越冬地であるチベット南中部の農業地帯に保護区を設置するための生態調査を実施する。

[チベット(中国)/中国農業生態環境保護協会:中国]

24. セブ島におけるマングローブ林の資源管理

セブ島南西部バディアン地区の30haのマングローブ林保全を目的に、住民による自然資源管理・開発(組織強化、マングローブ植林、保護林管理設備の建設など)を行う。

[フィリピン/タンピョグ開発センター]

25. コモド国立公園沿岸地域における海洋の保全

コモド国立公園沿岸地区において、乱獲・破壊的漁法を防止し、持続可能な漁業の推進を図る。

[インドネシア/ザ・ネイチャー・コンサーバシオン(TNC):米国]

26. コミュニティによる沿岸資源マネジメント

コロソ島原住民であるタグバヌア族(少数民族)の権利を確保しつつ、コミュニティによる自然保護及び持続

的開発を行う。

[フィリピン/環境問題法律相談センター(ELAC):フィリピン]

27. 中国・ラオス国境地帯における資源管理

ベトナムと中国、ラオスの国境地帯における野生生物の生息の実態、森林製品の取引きの状況を調査分析し、資源管理や貿易を管理するのに必要な情報を政府機関に提供する。

[ベトナム/イースト ウェスト センター:米国]

28. コミュニティによる自然資源マネジメント

ザンパレス地区におけるアイタ族の植林・アグロフォレストリー活動の支援。ポホール地区マリボジョック沿岸の住民の土地使用権確保活動及び経済開発活動の支援。

[フィリピン/フィリピン環境財団(FPE):フィリピン]

■海外NGO・新規案件

29. 北スラウェシにおける青酸カリ漁法の排除活動

ツンバク、タリーズ島、トギアン諸島において、生物多様性(特に珊瑚礁)に悪影響を及ぼす青酸カリ漁法の調査及びその防止活動。

[インドネシア/インターナショナル マリン アライアンス:フィリピン]

30. チベットにおける生物多様性の調査

チベットにおいて、今後の保護活動に資することを目的に、生物多様性の状況及び問題点について調査する。

[中国(チベット)/国際自然保護連合(IUCN):スイス]

31. グリーンフード生産と丘陵荒地の生態系復元

丘陵荒地の生態系回復と持続可能な農業開発の両立を目指し、植林、アグロフォレストリー、養魚、有機農法、灌漑などを組み合わせた開発を現地農民と共に実施する。

[中国/広州自然科学基金・華南農業大学:中国]

32. ガラパゴス諸島の植物多様性保全重点地区の特定と保護

ガラパゴス固有の植物を草食のヤギから守るために、保護が必要な地区を特定し、その地区の柵囲いを行う。

[エクアドル/ガラパゴス・ダーウィン研究所:エクアドル]

33. 北東アジア北太平洋環境フォーラムの開催

北東アジア地域の国境線沿いの自然保護活動促進を目的に、1993年より毎年1回開催してきた「北東アジア北太平洋フォーラム」の第6回を中国サンジアン保護区で

開催する。

[北東アジア/アジア財団：米国]

34. アワ地域の熱帯林保全活動

アワ地区において、住民を対象とした持続的な熱帯林管理についてのワークショップ、及びこの地区原産で森林にとって重要な受粉媒体であるワイマール蜂の養蜂の研修を実施する。

[エクアドル/エスクール-エクアドル財団：エクアドル]

35. ブータンにおける自然保護教育

地元の子供達を対象とした自然保護教育を実施。具体的にはネイチャー・クラブに教材などの支給、絵画コンテストの実施、鶴見学会の開催、植林ハンドブック作成など。

[ブータン/WWFブータン：ブータン]

36. 西部タイ・シャレ地区の自然保護活動

タイ~ミャンマー国境付近の国立公園の保全を目的に、隣接するシャレ地区の住民(カレン族)を対象とした自然保護教育を実施する。

[タイ/ポピュレーション アンド デベロップメント インターナショナル：米国]

37. 「エコスカウト」研修・調査・教育センターの設立
子供達がメンバーである自然保護グループ「エコスカウト」のトレーニング施設を設立する。また「エコスカウト」の組織化を通じて、辺境地に居住する若年層への環境教育を行う。

[フィリピン/エンバイロメント・プロテクション・インターナショナル・フィリピン(EPIP)：フィリピン]

KNCF NEWS SELECTIONS

トピックス

石垣島・西表島へ視察団派遣

経団連自然保護基金運営協議会では、本年5月14日から16日まで、運営協議会の後藤会長(当時)を団長とする視察団を、沖縄県の石垣島と西表島へ派遣しました。これまではパラオ、バブアニューギニアなど海外へ視察団を派遣し

ていますが、今回は国内に目を向け、豊富な自然環境が残されている両島を視察しました。

東南アジアの国々で、マングローブ林が軒並み伐採された様子を見てきていますが、西表島では、広大なマングローブ林が手付かずの状態です。白保のサンゴ礁も、世界各地でサンゴ礁が破滅しているなか、広い地域にわたって自然のまま残っていました。

総勢9名の視察団は、豊かな自然を観察するとともに、当地で自然保護に取り組む方々とも意見交換を行い、今後の活動の参考にしました。

積水化学から50周年記念寄付

積水化学工業(株)は1997年3月3日に創立50周年を迎えられ、同社はそれを記念し、自然保護事業を中心に社会貢献活動を全社的に進めていくことを決定されました。その事業の一環として、当基金に一昨年度5,000万円の寄付を、また昨年度も同様の寄付をいただきました。これらの寄付は、同社が特に関心を持つ下記の自然保護プロジェクトの支援資金として使われました。

()内は実施団体。

●'97年度：インドネシア・コモド国立公園沿岸地域における海洋の保全(The Nature Conservancy)、東南アジア諸国及びロシア・野鳥を指標とした重要自然環境調査(日本野鳥の会)、フィジー・西部地域緑化(オイスカ)、ミャンマー・植林普及推進(オイスカ)、タイ・エビ養殖池跡地におけるマングローブ林復元(マングローブ植林大作戦連絡協議会)

●'98年度：'97年度支援案件の継続のほか、バブアニューギニア・湿地生物多様性保全と泥炭

地火災予防キャンペーン(国際湿地保全連合日本委員会)、中国・チベットにおける生物多様性調査(IUCN)など

なお、同社は当基金への寄付のほか、自然保護への全社的な取り組みを行なっています。その活動については次号でご紹介する予定です。

後藤前会長、 国連から「グローバル500賞」を受賞

自然保護基金運営協議会の前会長である後藤康男・安田火災海上保険会長は、本年6月5日、「グローバル500賞」を受賞しました。同賞は、国連環境計画(UNEP)が環境保全活動の功労者を表彰する制度。当初、1987年から'91年までの5年間に500の個人・団体を表彰する予定でしたが、環境保護気運の高まりから'92年以降も継続されています。過去の受賞者は、ジミー・カーター(米国)、マーガレット・サッチャー(英国)、本田宗一郎(日本)の各氏ら。本年の授賞式はモスクワで行われました。

なお、去る7月15日の運営協議会総会において、後藤前会長の特別顧問への就任が決定いたしました。

グループ寄付をいただいた団体

経団連自然保護基金では、法人及び個人からのご寄付以外に、個人のお名前を伏せた上でのグループによるご寄付もいただいております。以下にそのグループ名を記載し、感謝申し上げます。なお、20万円以上のご寄付については、金額も記載させていただきました。(カッコ内の

数字は万円単位)

曙ブレーキ工業役員会(22)／アルバック精機(株)総務部／愛媛日経懇話会／甲斐芙蓉カントリー倶楽部／甲斐芙蓉カントリークラブ理事会ゴルフ会／科研製薬(株)／鹿島・地球環境委員会有志／兼松(株)有志一同(28)／(株)鴻池組(52)／国際協力フェスティバル(35)／(株)サイマル・インターナショナル／三機工業(株)本部長会／第一火災海上保険(相)(40)／台糖(株)／タグア有志の会／東京電力(株)用地部／東京電力(株)営業開発部／東京電力(株)環境部／東京電力(株)関連事業部有志一同／東京電力大学部／東京電力(株)立地環境本部有志一同(115)／とびぐち共済会(20)／豊田合成(株)施設環境部／豊田合成(株)尾西工場／豊田合成(株)生技管理部／豊田合成(株)技術企画部／日本コカ・コーラ(株)／本田技研工業(株)取締役監査役一同(36)／三菱グループ社会貢献活動実行委員会／安田火災海上保険(株)三八会有志一同／安田火災海上保険(株)福岡地球クラブ／安田火災海上保険(株)職員一同(2167)／安田火災海上保険 関連会社一同(356)／安田火災海上保険(株)北東京支店代理店／安田火災海上保険(株)神戸連合代理店会(40)／安田火災50年入社同期会旅行参加者一同／安田火災海上保険(株)地球環境室／安田火災中部本部ちきゅうくらぶ(47)／安田火災本館ちきゅうくらぶ(44)／安田火災海上保険(株)山口支店YY会／安田ビル管理(株)／安田マリンサービス(株)／横浜マリノスサイン会

法人寄付お申込み会社

1998年7月15日現在

1997年4月1日～1998年7月15日にご寄付をいただいた法人は以下の通りです。

(株) ニチレイ	大日本インキ化学工業(株)	日本ユニシス(株)	(株) 山口銀行
清水建設(株)	積水化学工業(株)	浜松ホトニクス(株)	(株) 肥後銀行
大成建設(株)	協和発酵工業(株)	松下電工(株)	(株) 北日本銀行
鹿島建設(株)	高砂香料工業(株)	トヨタ自動車(株)	(株) 東和銀行
西松建設(株)	日本油脂(株)	日産自動車(株)	ゴールドマン・サックス証券会社
前田建設工業(株)	三共(株)	本田技研工業(株)	日本生命保険(相)
五洋建設(株)	山之内製薬(株)	日野自動車工業(株)	第一生命保険(相)
(株) 鴻池組	エーザイ(株)	(株) デンソー	大同生命保険(相)
日本国土開発(株)	エスエス製薬(株)	アイシン精機(株)	協栄生命保険(株)
日本舗道(株)	科 研 製 薬 (株)	アイシン・エイ・ダブリュ(株)	東京海上火災保険(株)
若築建設(株)	富士写真フイルム(株)	カヤバ工業(株)	安田火災海上保険(株)
(株) 日建設計	コニカ(株)	日本発条(株)	日動火災海上保険(株)
大木建設(株)	(株) 資生堂	(株) 小糸製作所	興亜火災海上保険(株)
佐伯建設工業(株)	昭和シェル石油(株)	横河電機(株)	日産火災海上保険(相)
(株) ビー・エス	(株) プリヂストン	(株) ニコン	大成火災海上保険(株)
(株) きんでん	ニチアス(株)	(株) リコー	東亜火災海上再保険(株)
日本工営(株)	新日本製鐵(株)	H O Y A (株)	日立クレジット(株)
三機工業(株)	日本鋼管(株)	テルモ(株)	(株) クレディセゾン
高砂熱学工業(株)	日本金属工業(株)	(株) J M S	安田火災カード(株)
東光電気工事(株)	昭和アルミニウム(株)	富士ゼロックス(株)	太平洋興発(株)
日清製粉(株)	第一電工(株)	三菱商事(株)	エヌ・ティ・ティ移動通信網(株)
日本製粉(株)	(株) 豊田自動織機製作所	三井物産(株)	電気事業連合会
麒麟麦酒(株)	(株) 荏原製作所	伊藤忠商事(株)	東京電力(株)
アサヒビール(株)	ガイキン工業(株)	丸紅(株)	電源開発(株)
サッポロビール(株)	栗田工業(株)	住友商事(株)	日本原子力発電(株)
味の素(株)	(株) タクマ	日商岩井(株)	沖縄電力(株)
キッコーマン(株)	東洋運搬機(株)	(株) トーメン	東京ガス(株)
日本たばこ産業(株)	(株) 日立製作所	ニチメン(株)	オリックス(株)
昭栄(株)	(株) 東芝	豊田通商(株)	(株) 電通
東レ(株)	三菱電機(株)	伊藤忠燃料(株)	(株) 博報堂
旭化成工業(株)	松下電器産業(株)	タイムラー・ベンツ日本(株)	山種総合研究所
帝人(株)	富士電機(株)	日製産業(株)	野村企業情報(株)
セーレン(株)	日本電気(株)	(株) 菱食	(株) 日立総合計画研究所
住友林業(株)	オムロン(株)	東工コーセン(株)	(株) エム・シー・コミュニケーションズ
日本製紙連合会	国際電機(株)	日本アムウェイ(株)	オートビジネスサービス(株)
平和紙業(株)	シャープ(株)	(株) ダイエー	(株) 日本交通公社
大日本印刷(株)	住友スリーエム(株)	(株) イトーヨーカ堂	(株) 藤田観光
凸版印刷(株)	ソニー(株)	ジャスコ(株)	総合警備保障(株)
三菱化学(株)	ソニー・テクトロニクス(株)	(株) セブンイレブン・ジャパン	(株) ナカジマコーポレーション
呉羽化学工業(株)	(株) 高岳製作所	(株) 東京三菱銀行	(株) イオンファンタジー
東亜合成(株)	T D K (株)	(株) 住友銀行	
日本曹達(株)	日東電工(株)	大垣共立銀行(株)	(順不同)

個人寄付をいただいた皆様

前号に引き続き個人寄付者リストを掲載いたします。暖かいご支援、ありがとうございました。今後ともよろしくお願いたします。(敬称略、50音順)

相川雅子	安達誠一郎	アルバック精機㈱	石川昌宏	市川洋一郎	稲葉芳夫	岩月一詞	内山明雄
相田征勝	足立敏夫	安西邦夫	石川光和	市橋 保	稲葉良規	岩波武功	内山 彪
青木一三	足立祐一	安斉英明	石川裕勇	市原 博	稲本嘉之	岩部憲治	内山憲彦
青木清高	足立原明文	安藤和行	石川雄三	市村 元	稲山孝英	岩松重裕	宇野智久
青木俊介	阿野兼昭	安東 原	石黒基一郎	逸見 繁	犬飼紀喜	岩村政臣	卯之木十三
青木 進	阿比留 雄	安藤豪敏	石黒隆史	井出和彦	犬飼通之	岩本純治	梅澤治為
青木辰男	阿部 明	安藤 博	石黒嘉人	井手和英	㈱大塚保険事務所	岩本雅男	梅田敬蔵
青木英勝	安部和寿	杏中保夫	石毛克政	井出敬三	井上悦次	植木良彰	梅田立央
青山幸雄	阿部喜久男	安倍和也	石毛克政	井手端三男	井上公夫	植草秀雄	梅村正司
青山徳次	阿部久四郎	飯尾 進	石坂芳男	井出雅美	井上 賢	上坂凱勇	梅本章夫
青山行雄	阿部慶一	飯島一玄	石田 治	井出 睦	井上堅三	上嶋輝雄	梅本純正
明石 連	阿部貞雄	飯田 真	石田喜祥	伊藤主計	井上 信	上杉定嗣	浦西徳一
赤沼二己男	阿部鈴雄	飯田一嘉	石田邦彦	伊藤金通	井上輝一	植田厚生	江上一雄
秋沢穰二	阿部忠雄	飯田邦彦	石田 威	伊藤菊夫	井上 徹	植田一美	江口 祥
秋田 厚	阿部 謙	飯田 博	石田正巳	伊藤貞雄	井上恵太	上田英彦	江口悟郎
秋田 修	阿部吉二	飯田庸太郎	石田三雄	伊藤 蕃	井上正明	植田 稔	江口 威
秋田豊久	安倍慶衛	飯田吉平	石田泰雄	伊藤淳一	井上 實	植田 饒	江口俊行
秋田 宏	天野 昭	飯塚 章	石館陸男	伊東祐弥	井上了介	上田善昭	江島健二
秋葉貞治	天野俊樹	飯塚嘉津美	石津司郎	伊藤精七	井ノ口芳和	植竹一浩	枝 実
秋元東男	㈱滝美保険センター	飯塚洲一	石津谷綾子	伊藤健志	今井清明	上野朝生	枝吉信種
秋山泰造	雨宮高一	飯野俊春	石戸純一	伊藤 武	今井龍男	植之原道行	越後谷桂之介
秋山 敬	株式会社アマヤ	飯村 治	石橋捷意	伊藤 正	今井規之	上林常夫	江戸英雄
秋山 毅	網野玄太郎	井奥博之	石橋幹一郎	伊藤鐵之助	今井 實	上原尚剛	衛藤博啓
秋山昭男	荒井 晃	五十嵐隆夫	石橋 勉	伊藤俊明	今泉 勲	植松達良	江名輝彦
秋山富一	荒井 宏	池上虎雄	石原弘二	伊藤壽英	今川 章	上村 浩	榎本聡明
秋山裕和	新井芳雄	池亀 亮	石原 勝	伊藤敏安	今林 弘	鷗飼 恵	江花 輝
浅井郁彦	荒川喜男	池島義幸	石原光男	伊藤友生	今村秋夫	請川利治	荏原朝夫
浅井昭次	荒木悦雄	池田脩晤	井島幸男	伊藤宣博	今村 晉	宇佐見和彦	江見昌造
浅井満蔵	荒木健作	池田 誠	石光 嶺	伊藤東彦	今村 均	牛崎公和	惠美 猛
安積紀夫	荒木湘三	池永英夫	和泉清一	伊藤 博	井村昭弥	岩井宣明	江見盛行
浅上健彦	荒木 進	池淵浩介	和泉延隆	伊藤文夫	岩井宣明	岩井宣明	㈱エムジェイ
朝倉信夫	荒木隆司	生駒正行	磯崎祐二	伊藤睦夫	岩井正樹	岩井正樹	遠藤源太郎
浅羽忠克	荒田俊雄	石合正和	磯部修一	伊藤之雄	岩井 陸	岩倉信弥	宇高省二
浅羽 宏	有賀常行	石井輝夫	磯村 巖	伊藤容吉	岩佐凱實	岩佐凱實	内川 晋
朝日 誠	有田龍郎	石井敏彦	板垣一彦	糸賀俊一	稲垣謙三	岩崎克己	内久保晋一郎
朝久賢一	有馬孝昌	石井英臣	板倉治成	稲富 敦	稲富 敦	岩崎 保	内田康哉
浅海 昭	有馬光彦	石井洋之	板谷 清	稲富美奈子	稲富美奈子	岩崎正視	内田公三
浅見昌平	有馬敏郎	石井富士男	猪谷治雄	稲名慶彦	稲名慶彦	岩瀬 明	内田茂男
足田 勉	有吉元三郎	石川康裕	市川伊三夫	稲葉慶一	稲葉慶一	岩瀬 明	内田有方
東 定三	有吉孝一	石川雄彦	市川英明	稲葉忠実	稲葉忠実	岩瀬敬一郎	内田禎夫
安宅浩昭	有若 仁	石河正樹	市川和夫				内野 徹
							大内淳義

大内捷雄	大西 勇	小川 博	小野寺駿一	加藤半蔵	河井康郎	北村 弘	久野一郎
大川博通	大西和男	小川守雄	小原俊二	加藤博之	河合良一	北村猪之進	久保田啓典
大河原良雄	大西 匡	小川安雄	織田健一	加藤道人	川浦 章	北村恒夫	久保田省三
大木満喜男	大西利美	小川奄平	恩田剛男	加藤康雄	川久保 弘	北村必勝	久保田照雄
大木幹郎	大西博康	小河原龍己	甲斐襄輔	加藤由人	河崎小五郎	北村 博	窪田敏夫
大木島 巖	大西雅之	荻田武雄	甲斐行雄	加藤嘉之輔	川崎七三郎	北村文夫	久保田政一
大串秀夫	大野邦昭	沖田 正	甲斐良一	加藤由船	川崎 弘	北山 宏	久保田康文
大久保宣夫	大野大輔	隠岐田 宏	海崎洋一郎	カトウ保険部	川路恭郎	吉嶋俊明	窪田芳夫
大久保克治	大野良一	荻野雅央	開田久子	金井 務	川澄一明	城戸雅己	久保地理介
大久保展男	大場健護	沖信春男	改田 護	金澤 彰	川澄紘二	鬼頭誠一	熊谷一雄
大久保弘道	大庭勝良	奥田二郎	垣添尚平	金澤雄也	川瀬 茂	喜頭時彦	熊沢寛由喜
大崎一麿	大庭幸雄	奥田正司	角本 章	金澤 洋	川瀬 魏	木下明男	久米是志
大里長城	大橋とくじ	奥田 碩	筧 修治	金出一郎	河田光祝	木下 潔	久米 宏
大澤紀郎	大橋雅一	奥田宏史	蔭山俊男	金丸利壽	河内鋭雄	木下祝郎	久米 豊
大澤 浩	大橋昭光	奥富哲郎	籠島伸吉	金守謙吉	川手良享	木下正作	倉橋市郎
大島 剛	大島 晏	奥山通夫	笠井和彦	金子榮司	川名義一	木下藤次郎	栗岡完爾
大島 久	大原 寛	小倉久可	笠井 要	金子邦男	川畑 清	木下 昇	栗林定友
大島康宏	大原光雄	小倉英世	河西京二	金子恒治	川原康成	木下藤夫	厨川眞夫
大島陽一	大森啓造	尾崎吉兵衛	風岡宏明	金子尚志	河辺 進	木下嘉清	栗山昭彦
大島隆二	大森幹夫	尾崎健二	笠原有二郎	金子正明	川俣勝也	木原武正	黒岩秀夫
大島昭正	大森義弘	長田貴雄	笠原幸雄	金子巨高	河村 肇	木方敬興	黒川喜市
大須賀洋郷	大楽しおり	小澤 榮	笠間 薫	兼崎勝行	河村 宏	木村章義	黒木直康
大隅楢彦	大和田国男	押川和博	梶谷 陽一	金田英一	河村幹夫	木村悦朗	黒 浩
太田和宏	岡 徹夫	小関周一	榎原 健	嘉納和彦	カワムラヨシブミ	木村光一	黒澤 洋
太田貫一	岡上 聡	小田啓二	柏木雄介	加納誠三	川本信彦	木村泰治	黒住昌昭
大田 享	岡崎正志	小田伸司	柏原正明	加納時男	木内藤男	木村隆佳	黒瀬延昌
太田紀夫	岡崎友信	小田 剛	賀須井 侑	加納 實	菊地比呂志	木村 猛	黒田啓太
太田 元	小笠原浩治	小田敏夫	春日重彦	叶内紀雄	菊池幹郎	木村 剛	桑田敏士
太田昌快	岡下哲昌	越智琢一	片桐敏宏	上浦種彦	木崎 晃	木村昌弘	桑原喜三郎
太田幹二	岡島克雄	落合昭吾	片田哲也	神尾知弘	岸 敏夫	木村正文	兼原幸一
大高時男	岡島 徹	落合治彦	片野正三	上岡賢二	岸上保宏	木村道夫	慶松勝太郎
大高英昭	岡田昂三	落合 守	片山 薫	上條 實	岸田義雄	木村安夫	小坪律夫
大竹宏武	緒方 威	音馬 峻	甲木忠男	上村征四郎	木島孝蔵	行天豊雄	小池貞雄
大谷宏志	岡田信近	乙葉啓一	勝俣恒久	上村哲夫	木嶋貞郎	教山晃昭	小池太三
大塚栄一	岡田秀雄	小沼敬一	勝俣宣夫	上村俊彦	岸本圭之介	桐湖利博	小泉脩一
大塚伸之	岡田義孝	小野晃照	勝峰 昭	上村 稔	木曾正治	金京法一	小泉恵弘
大塚 康	岡田義彦	小野茂夫	加藤和平	紙本治男	喜田日出男	金納文治	小出和夫
大塚義美	岡野満武	小野堯之	加藤国吉	神宮 滋	北岡 隆	金原淑郎	小出輝哉
大槻紘一	岡野 豊	小野利明	加藤研一	神谷聰一郎	北岡鐵朗	銀屋 洋	小糸義泰
大槻幹雄	岡部正彦	小野敏夫	加藤健一	神谷保広	北岡 徹	久賀 勇	高 捷雄
大槻泰暎	岡本一雄	小野久義	加藤憲太郎	神谷義明	北岡俊樹	楠 兼敬	高坂節三
大戸宏文	岡本公夫	小野英樹	加藤伸一	亀井澄江	北城格太郎	楠美憲章	小路英明
大友栄一	小川 章	小野博義	加藤眞一	亀山博光	北田栄作	久染一男	古宇田篤志
大友国郎	小川克己	小野崎 敏	加藤進平	萱野恵一	北野幹雄	工藤泰邦	幸田好生
大西 章	小川邦夫	小野田 浩	加藤眞彌	萱生 統	北島光弘	國廣安彦	甲谷知勝
大西厚志	小川徳男	小野田 浩	加藤武彦	河合秀幸	北原秀夫	久野明人	幸塚伊周

神津保険事務所	小濱公洋	斎藤晴彦	笹本静夫	四十萬 久	蛇川忠暉	鈴木和子	関山高弘
河野喜代一	小早川真也	斎藤秀市	佐竹道全	設楽卓也	城 クニ子	鈴木克郎	世古隆哉
河野弘史	小林 亮	齋藤 裕	定直正光	実村寿郎	莊 孝次	鈴木銀生	瀬古由郎
河野通陽	小林一造	齋藤将晴	佐藤昭十	市東義宏	庄司和義	鈴木嘉平	瀬島龍三
公平 宏	小林 料	斎藤雅之	佐藤百典	品川寿夫	城北保険サービス	鈴木啓介	説田義暉
高山利雄	小林一雄	斎藤凱夫	佐藤公久	紫野 眞	白井順一	鈴木康司	瀬戸恒義
高麗照日出	小林國夫	仰さいとう事務所	佐藤信芳	篠崎昭彦	白井哲三郎	鈴木 悟	瀬戸宗太郎
小枝 至	小林宏治	佐伯 繁	佐藤宏二	篠崎雅美	白石 智	鈴木重直	仙石 守
古賀喜八郎	小林孝之助	佐伯達夫	佐藤俊治	篠崎 充	白石英雄	鈴木誠一	仙波慶一
古賀恭一	小林正助	佐伯尚孝	佐藤孝雄	篠原昭雄	白川侃司	鈴木精二	宗 基義
古賀 勉	小林信市	佐伯晴男	佐藤尚司	篠原一郎	白谷清二	鈴木宗一郎	早田 守
古閑史郎	小林信生	佐伯正治	佐藤武久	篠原 巖	白土良一	鈴木 敬	相馬三三
古閑洋子	小林紀之	三枝格一	佐藤武文	篠原澄夫	白水宏典	鈴木卓也	曾根 準
小木曾政助	小林久夫	酒井幸治郎	佐藤直樹	篠原忠彦	白橋定介	鈴木 武	園田博男
湖口雄蔵	小林 宏	酒井次吉郎	佐藤 誠	篠原英昭	新開三千秋	鈴木 忠	園山裕三
国米 惇	小林康弘	酒井進児	佐藤敬臣	柴 宏	新宮威一	鈴木千尋	染谷洋次
小坂一太	小林陽太郎	坂井弘明	佐藤道生	柴崎周彌	神宮司 順	鈴木禎二	泰道直方
小坂幸男	コバリエージェンス	坂井 宏	佐藤光男	柴田邦雄	進藤 貴	鈴木英夫	大徳 忍
小坂土朗	小牧正二郎	坂井光男	佐藤幸男	柴田隆雄	新西巧一	鈴木美佐男	平 綱治
小坂幸雄	駒村 久	栄 季一	佐藤義明	柴田尚武	新保敏治	鈴木康夫	高井延幸
小笹俊一	五味宏幸	榑原嘉一	佐藤良一	柴田英生	神保壽夫	鈴木峯生	高井眞澄
小塩久光	五明恒夫	榑原勝朗	佐野謙次郎	柴山久慶	吹田尚一	鈴木盛雄	高岡 清
兒島伊佐美	小森園和弘	坂口忠一	佐野伯伊	洪田憲男	吹田文彦	鈴木康之	高岡祥夫
小島脩平	小森谷祐広	阪下 章	佐野光有	渋谷志朗	水藤吉雄	鈴木幸雄	高垣 佑
小島順一郎	小山圭一	坂下廉二郎	佐野征啓	島田敏生	須恵利明	鈴木 裕	高木孝一
小島久義	小山貢右	坂田 勁	佐室瑞穂	嶋田幸夫	菅谷 節	鈴木與四郎	高木誠造
小島浩志	小山治彌	坂田 眞	佐山武英	島本明憲	須川昌夫	鈴木与四郎	高木 匡
小島正興	権正信行	坂田 瑛	猿橋隆次	島山博明	菅原勝義	鈴木俊蔵	高木俊毅
見嶋正則	近藤恵之助	坂野常和	澤口 博	清水 治	杉 正	墨 明	高木史人
小島幸夫	今藤健征	坂本 勲	沢田憲一	清水泰介	杉浦文夫	住江 漢	高木泰夫
越山英樹	近藤詔治	坂元克彦	澤田知義	清水 侃	杉崎盛一郎	澄川啓介	高木好一
小杉信光	近藤 剛	阪本直樹	澤村賢志	清水直樹	杉田滋夫	澄川清治	高岸芳郎
小菅智恵子	近藤寿夫	坂本眞征	澤村紫光	清水哲太	杉中利弘	瀬尾隆史	高久俊雄
小菅啓嗣	近藤信行	崎田由美子	三大寺泰敏	清水 博	杉野 昇	瀬尾俊朗	高倉 勇
古平通雄	近藤光洋	桜井 清	山王正一	清水 勝	杉原瀚司	瀬尾昌良	高坂節三
古武正志	近藤 靖	桜井静雄	(資)サンマルニ企画	清水保雄	杉原久雄	瀬川清一	高島 等
児玉国雄	今野隆史	佐々木健一	(株)三友	志村哲男	杉峯統一郎	関 郁夫	高嶋 稔
児玉庄一郎	紺野保弘	佐々木茂樹	(株)サンライズ	志村道晴	杉山幸一	関 隆明	田頭 侃
小寺 斌	才川至孝	佐々木 元	椎名武雄	下角勝良	杉山政雄	関 民夫	高瀬重己
後藤昌栄	細郷英明	佐々木 正	塩田 保	下島啓亨	杉山峯夫	関口 彰	高田幸人
後藤 隆	殿勝寺 晃	佐々木正義	塩月光彦	下平真也	助川和久	関島和夫	高田孝昭
後藤常元	斉田 実	佐々木有一	塩見正直	下村司郎	助友利隆	関根俊彦	高田恒利
後藤康男	齋藤明彦	笹田眞平	塩森三郎	下村 博	須崎秀一	関根宣行	高田優子
小西昌樹	齋藤清隆	笹津恭士	志賀 隆	下村 豊	鈴木 孝	(有)関根保険事務所	高田陽一
小西正己	齋藤修二	笹原 徹	志賀 拡	下山泰司	鈴木 勲	関本忠弘	高津裕明
小島輝明	齋藤武幸	笹本国彦	重松宗男	下山泰司	鈴木和夫	(有)関矢保険企画	高浪卓造

高根 靖	武尾啓次	田中信夫	千葉正人	手島五郎	鳥居一守	永田順子	七久保 操
高野尚松	竹尾雄治	田中紀夫	中国ヤスダ	手島 勉	鳥海 巖	永田輝夫	奈良久彌
高野尚彦	武重勇蔵	田中 仁	張 富士夫	手塚和昌	鳥飼 徹	中田久志	成澤 威
高野純孝	武田敏也	田中 博	丁子公博	寺内弘行	鳥谷昭昭夫	永田安成	成田好將
高橋千珠	武田忠徳	田中啓雍	千輪 博	寺岡利勝	内藤正久	永田有作	成岡産業(株)
高橋 朗	武田俊彦	田中富士夫	築城通雄	寺沢康行	内藤頼昭	中谷 衛	成瀬知則
高橋映吉	竹田英樹	田中正治	津浦 嵩	寺田 淳	中井昭男	中塚 猛	名和利昌
高橋光一	竹田津勝彦	田中康夫	塚原昭徳	寺谷卓三	永井秀之	中藤隆之	新岡庸一
高橋 清	武智浩隆	田中悠紀夫	塚本隆一	寺中慶二郎	長井鞠子	永利植美	新納真人
高梁健一	竹歳一夫	田中洋一	塚山隆一	寺部孝平	長永公一	長友 裕	新見義明
高橋三郎	竹中 誉	田中義巳	築山泰夫	土井弘道	中尾潤一	中西 公	二階堂輝司
高橋直通	竹野 巖	田中丸善司	佃 龍彦	任田晃一郎	中岡 進	中西英介	二木 實
高橋俊裕	竹林 久	田邊忠夫	柘植菊男	當山宗三郎	長岡 毅	中西恒雄	西浦英次
高橋富夫	竹原正篤	田部文一郎	辻 明弘	遠矢勇作	永岡正敏	中根忠義	西尾 博
高橋永世	武部孝明	谷 嘉壽男	辻 薫	遠山 誠	仲上正信	長野英一	西岡思郎
高橋宣博	武政良子	谷 俊司	辻 繁治	登家正夫	中神靖雄	永野一彦	西岡 喬
高橋英雄	田子善敏	谷 保光	辻 武宏	戸川次雄	中川 哲	中野重勝	西岡利道
高橋秀雄	田崎幸哉	谷川寛三	辻 亨	時枝茂治	中川哲樹	中野省吾	西方二男
高橋裕勝	田尻照明	谷川原治夫	辻 康郎	徳永光機	中川英彦	長野 愿	備西方総合保険センター
高橋和平	田代健爾	谷口 保	辻 義文	徳永政男	中川 勝	中野誠一郎	西川 昇
高橋嘉真	田代守彦	谷藤英夫	辻田浩三	徳弘英策	中川恵史	長野俊泰	西川禮二
高濱健二	多田明生	谷山順一	津田弘通	戸崎誠喜	長坂善四郎	中野友雄	西坂徹雄
高松茂行	多田京蔵	種市 健	津田道夫	戸田一夫	長崎洋一	中野智彦	西園 仁
高松 穰	多田 實	種村勝平	津田義久	戸田忠秀	長沢 出	長野陽市	西田健一
高山信利	多田野耕太	田畑浩司	土田 進	戸塚慎治	中澤忠義	永原章甫	西田達雄
高山満仲	只野喜男	田林巖樹	土本嘉寿夫	利根山武彦	中澤豊文	中原 眞	西田常男
高山 由	唯見武男	玉井研造	土本博通	飛島 齊	長澤雅浩	中村 勲	西田典生
田川 進	館 糾	玉井孝生	土本康史	富岡亮一	長沢佳克	中村一郎	西田 弘
瀧 省一	立花 宏	玉河晋次	ツチャカオル	富田高行	中島健吾	中村和郎	西田弘志
滝戸 博	立野隆夫	田巻 聰	土屋勝敏	富田 務	中嶋紘一	中村寛之助	西野勝也
滝本佳一	辰巳徳蔵	玉木輝夫	土屋史郎	富永素右	中島 健	中村クニオ	西野宣司
瀧本誠也	立石孝雄	玉越嗣朗	土屋眞三	貫 秀一	中島立生	中村兼三	西八條 實
宅 清光	立石信雄	玉生亘弘	土屋徳之助	富山正一	中島敏夫	中村幸三	西牧靖弘
田口 栄	立石義雄	玉谷志津子	筒井一英	外村遣夫	中島久彰	中村仁之	西村敏寛
田口俊明	田中 彰	田村和美	筒井房直	友國準子	永島 宏	中村英男	西村征男
田隈理一	田中 勇	田村國男	都築 寛	友田順久	中島政行	中村文廣	西本建治
竹井忠夫	田中昂三	田村滋美	角田達郎	友野勝也	中島 操	中村将史	西山昌園
武井真哉	田中 駿	田村 靖	坪井 清	外門一直	永島陸郎	中村 豊	西山達男
竹内邦嘉	田中 宥	田山泰之	坪田憲俊	豊田章男	中島泰夫	中村龍平	西脇 孜
竹内滋郎	田中宣博	榎上一馬	津本 清	豊田英二	中島米蔵	中村典夫	新田謙治郎
竹内清次	田中 敬	團野廣一	津森信也	豊田章一郎	中島龍樹	中谷逸郎	新田恒治
竹内哲夫	田中武喜	近石 晋	露木 修	豊田達郎	中條邦宏	中山賢司	仁藤泰一
竹内哲也	田中 務	千神昭士	鶴岡忠成	豊田博子	中條智子	中山尚三	丹羽宇一郎
竹内敏雄	田中 孜	地徳盛雄	鶴田利行	豊田 眞	中田浩二	奈木和子	額賀弘義
武内昌晴	田中友昭	千野清巳	鶴見貞夫	豊田隆三	永田耕治	名武由人	糠沢和夫
竹内義雄	田中尚武	千葉一彦	鶴本 等	豊永恵哉	永田耕二	夏目暢夫	額谷克二

貫名健三	長谷川康司	林 善樹	廣瀬秀雄	藤本克典	堀籠登喜雄	松川保雄	摩尼義晴
貫名貞夫	長谷川正治	原 一男	廣瀬良子	藤本 進	本田純子	真継 昭	馬淵辰郎
沼 靖雄	長谷川義雄	原 三郎	広田 勝	藤本英夫	本田勇一郎	松倉元紘	真弓 徹
沼田準二	畠山重實	原 直文	廣田保之	藤森鐵雄	本多朗理	松澤 建	丸杉雄造
根上卓也	畠山利昭	原 秀男	弘津秀雄	藤山昭也	本並正直	松澤攻臣	丸茂長幸
根岸 亮	波多野 至	原 禮之助	樋渡 武	藤原暁男	本間 厚	松澤卓二	丸山進也
根本紘一	服部一久仁	原口一幸	笛木謙右	藤原勝博	本間兼朗	松澤 亨	丸山哲夫
根本久雄	服部壽郎	原口直治	深津賢輔	藤原忠勝	本間省吾	松下直弘	丸山輝雄
根本保険事務所	服部正彦	原沢謙司	深町政則	藤原敏雄	前川貞雄	松下正幸	丸山治男
野上和之	服部隆三	原田 晃	福井愨一	藤原豊太郎	前川修進	松島 実	丸山秀治
野口懺三	初見 清	原田忠和	福井威夫	藤原正義	前川寛二	松島康夫	馬渡一眞
野口紘一郎	羽取 昌	原田東作	福川伸次	藤原幸實	前田勝博	松田岩男	萬玉嘉隆
野口照久	花岡正紀	原山道衛	福島明男	藤原龍治	前田光治	松田和男	三浦貞二
野口由紀子	花形 澄	春 英彦	福島 勇	二見常夫	前田正一	松田充史	三浦 登
野坂照光	花田公行	春名和雄	福島孝一	二見富雄	前田民三	松田武彦	三ヶ尻 剛
野崎誠介	花田昌三	伴 章二	福島建夫	船木隆夫	前山 誠	松田 基	三上 徹
野沢 隆	花房正義	鳩澤 孝	福島龍郎	船久保伸一	眞本法雄	松永双一	三上道子
野島一成	槁 章次	半田 育	福田 厚	舟越久葵	牧 文一郎	松永鏡造	三坂泰彦
野島行二	槁 義一	半場友也	福田順吉	船津正雄	牧瀬善毅	松浪修一	御前一郎
能勢伸治	羽田祐一	東 款	福田孝彦	古市 守	牧野輝雄	松野辰治	水上萬里夫
野田直樹	羽根田 豊	東 澄夫	福田浩昌	古川隆夫	楨原 稔	松延直之	水崎 巖
野田康夫	馬場 隆	東 英男	福田光昭	古澤孝之	正木 喬	松原彰雄	水谷克彦
野中健夫	馬場征彦	樋口廣太郎	福永勝也	古田公男	真下正樹	松原鶴雄	水谷次幸
野々山 徹	馬場義彦	日暮正信	福岡宣雄	古田 武	真島公三郎	松原裕明	水野 薫
ノハラ保険事務所	土生隆幸	久門 泰	福村 勲	降旗信行	真下秀男	松丸和男	水野清彦
信元久隆	濱岡平一	久富眞志	福元淳一	壁谷勝彦	益田見尚	松見捷郎	水野武男
野村健治	浜岡正好	久松保一郎	房野夏明	帆足建三	益田富治	松見 昇	水野博之
野村高史	浜坂 稔	久本誠二	藤 純一	坊上卓郎	増田信行	松村 滋	水野 勝
野村恒雄	浜砂順一	土方宥二	藤井晃一郎	穂刈一雄	樹田 稔	松村隆治	水野弥生
野村稔郎	浜田幸雄	備前 昇	藤井俊明	保坂 平	町田 睿	松村秀雄	水野幸男
乗杉 裕	濱田淳一	樋沼達雄	藤井利男	星 璋	松井 進	松村 洋	水野芳昭
波木井 茂	浜田士郎	日根野 稔	藤井大至	星 敬	松井善之助	松本 瑛	三角悦弘
萩野道義	浜田 実	平井圭左	藤井祐三	星 敬	松井宏則	松本孝作	溝口俊輔
萩原 正	濱中昭一郎	平井慎介	藤岡俊昭	星野喜代次	松井正男	松本滋夫	溝辺哲男
羽倉信也	浜野文衛	平井紀夫	藤崎 章	星野聰史	松井基祐	松本誠也	溝呂木 修
運 寿雄	浜辺修二	平岡岩雄	藤嶋弘康	星野晴彦	榎松井商事	松本享久	三田勝茂
端田泰三	浜本光雄	平川 亨	藤田一郎	細川 薫	（株）松井保険事務所	松本健夫	三田宏也
橋場 徹	早川 滋	平田孝三	藤田勝基	細川博明	松浦紘一	松本輝壽	見谷紘二
橋本 興	早川雅正	平田英夫	藤田師三	細川悦利	松浦 政	松本 宏	三谷昭一郎
橋本 孝	早川允章	平田博美	藤田 肇	細谷登喜雄	松尾幾久夫	松本 弘	三田村嘉也
橋本 徹	林 明夫	平沼重巳	藤田弘道	細谷泰雄	松尾健三	松本政清	（株）道下保険事務所
橋本利一	林 敬也	平野浩志	藤田良三	堀田輝雄	松尾惇一	松矢孝一	三井一郎
橋本正孝	林 七郎	平野幸久	藤野 徹	堀田康司	松尾淳平	松山好孝	三ッ本常彦
橋本 守	林 進	平野井 繁	藤野文昭	堀井信宏	松岡邦彦	松吉健夫	皆木敏宏
橋本 睦	林 主税	廣江利幸	伏見清喜	堀内司朗	松岡康雄	真鍋 陽	湊 明久
蓮見敏男	林 鐵也	廣瀬 清	藤本厚子	堀江薫雄	松川朋矩	真鍋武雄	湊 勝二

湊 秀夫	宮本康英	森 弘	柳沢 忠	山本文彦	吉田 誠	渡辺 一
皆徳光雄	三好俊吉	森 博俊	柳館純緒	山本 康	吉永祥二	渡辺 肇
南 敬介	三善信一	森 佳一	矢野正躬	山本善彦	吉永武彦	渡辺博吉
南 志麻	三吉 進	森岡正憲	山内啓正	山本恵朗	吉野浩行	渡辺 宏
南 直哉	三好正也	森川勝巳	山内康仁	山脇利捷	吉松正造	渡邊浩之
南 光成	三輪 憲	森川孝三	山岡昭次	湯浅達裕	吉村英一	渡辺正男
峰崎憲二	向井 健	森川裕子	山岡弘行	湯浅 浩	吉村公平	渡辺正徳
峰野 保	向井忠雄	森越志朗	山口博人	結城宇明	吉村信哉	渡辺裕一郎
美野川慶一	向井美治雄	森澤寛二	山口藤夫	湯藤 哲	吉村直樹	渡邊義治
三橋正明	向山 実	森下洋一	山口 實	湯野川孝夫	吉村元孝	渡利 陽
三村庸平	武藤泰介	森田健一	山口興産	横井 明	四十宮正男	
宮 康博	宗国旨英	森田 武	山崎 勲	横川育代	米井元一	
宮岡和夫	村岡 隆	森田 一	山崎英藏	横田 昭	米倉 功	
宮川昌夫	村上 敏	森田雅太郎	山崎誠三	横田英則	米澤賢治	
宮川善行	村上 平	森本圭一	山崎琢磨	横畠啓太郎	米澤公一郎	
宮口保険企画	村上 武	森本直行	山崎俊夫	横堀尚昭	米津武彦	
三宅修二	村上英亮	森本正雄	山崎源健	横山清次郎	米永達弘	
三宅章二郎	村上元三	森本泰雄	山下貞治	横山 齊	米持清三	
三宅孝雄	村島政雄	守屋善治	山下建夫	横山 幸	四方田正之	
三宅英之	村田 薫	森山泰治	山下 弘	吉井庄次	力武豊喜	
宮崎 明	村田利雄	森山 寛	山城彬成	吉岡 哲	若井 紀	
ミヤザキエイチロウ	村田 肇	森山安雄	山田 亮	吉岡義朗	若杉幸弘	
宮崎邦次	村田三雄	森分哲男	山田勝久	吉川昭利	若林啓一	
宮崎敬一	村松 誠	諸隈嘉一	山田清文	吉川英一	若林 忠	
宮崎茂彦	村本周三	諸戸孝明	山田隆哉	好川純一	若松明弘	
宮崎成一	室崎勝聰	諸橋晋六	山田倬三	吉川征一郎	若村保二郎	
宮崎 力	室伏 稔	矢ヶ部英夫	山田建己	吉川 稔	若山謙一郎	
宮崎保険事務所	室町鐘緒	八木茂彦	山田哲雄	吉川洋司	若山 繁	
宮田明則	毛利智幸	矢口 猛	山田悟央	吉國二郎	脇田正博	
宮田貞夫	毛利博之	矢鋪豊治	山田 勝	吉澤建治	分部清史	
宮田 進	茂木邦昭	矢島啓子	山田道弘	吉沢 博	和光俊彦	
宮田 勝	茂木考一	安江 修	山寺文弥	吉沢嘉雄	鷺尾 実	
宮野友次郎	望月正二	保岡真紀	山中 弘	吉島健介	和田明広	
宮原 明	望月一成	安田 瑛	山根勇雄	吉田和夫	和田 勲	
宮原賢次	望月金男	安田耕一郎	山根祐五郎	吉田和正	和田勝義	
宮原茂悦	桃井好一	安田隆彦	山本一宣	吉田清守	和田友利	
宮原成夫	百瀬 功	安田正道	山本喜八郎	吉田健次	和田博純	
宮原秀彰	百生一郎	安田火災高橋代理店	山本恭治	吉田康一郎	和田文男	
宮部謙三	森 亮人	㈱安田損害保険企画	山本清成	吉田絃司	渡辺明雄	
宮部 望	守 恭助	安永 洋	山本幸助	吉田耕三	渡辺捷昭	
三山安弘	森 啓次	安松 徹	山本始郎	吉田秀玄	渡辺 潔	
宮村眞平	森 賢二	谷井篤三	山本精徳	吉田 純	渡辺建徳	
宮村忠司	森 保	八東大三	山本 剛	吉田庄一郎	渡 浩二	
宮本昇平	森 久男	箭内敏勝	山本格一	吉田俣也	渡邊信一郎	
宮本 昇	森 寿夫	柳 忠志	山本哲弘	吉田千雪	渡辺新平	
宮本博之	森 弘志	柳沢函一	山本俊和	吉田宏之	渡辺 翰	



耕される魂

万樹臨人

遠い収穫を祈って

おまえは朝露の土を打つ。

力の拳をふりあげ

やせこけた鋤をふりおろす。

頑なな土くれ

意固地な小石たち

虫々の和合

言葉なき大地との語らい。

しなる腕に 朝鳥の一声。

人が人でありうるための

はてしない農。

さあ いま一度汗を絞れ。

一服の茶が

おまえを待っている。

妻と子のねぎらいが

おまえを待っている。



経団連自然保護基金運営協議会 Keidanren Committee on Nature Conservation

会長：樋口 廣太郎

事務局：〒100-8188 東京都千代田区大手町1-9-4

社団法人経済団体連合会 地球環境本部 地球環境・エネルギーグループ

TEL 03(3279)1411 FAX 03(5255)6258

経団連自然保護基金 Keidanren Nature Conservation Fund

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-5-4 大手町フィナンシャルセンター

TEL 03(3212)8220 FAX 03(3212)8222